市町村名	北谷町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	北谷町観光物産プロモーション事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－(2)－ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	建設経済部　観光課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	北谷町の知名度を一層向上させ、本町への観光客誘客推進と観光資源の効果的なピーアール及び販路拡大支援を図るため、県外等において、プロモーション事業を展開する。				
効果発現年度	■当年度　　□後年度（　　年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	11,872	8,600	12,300	12,492	12,499
	(b) 予算現額	11,872	8,600	12,300	12,492	12,499
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	11,872	8,600	12,300	12,492	12,499
	B. 執行済額	10,967	8,600	12,300	12,492	12,499
	うち交付金充当額	8,773	6,880	9,340	9,993	9,999
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率（%）(B/A)	92.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明	当初計画のとおり事業を執行した。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
台湾におけるプロモーション	目　標	（　実施　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	実施			
香港におけるプロモーション	目　標	（　実施　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	実施			
韓国におけるプロモーション	目　標	（　実施　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	実施			
達成状況説明	当初計画のとおり、台湾・香港・韓国それぞれにおいて、現地旅行系メディアへのプロモーション、現地インフルエンサーを活用したプロモーション、台湾における北谷町滞在モデルコースの企画を実施した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（5年度）	R6年度	R7年度	R8年度	目標値（　年度）
北谷町観光情報ポータルサイト(北谷日常)閲覧回数	目　標	（100,000）	（150,000）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		99,000			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					
進捗状況説明	北谷町観光情報ポータルサイト(北谷日常)閲覧回数が、目標値である150,000回に対し、99,000回であり目標を達成できなかった。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	(北谷町観光情報ポータルサイトの閲覧回数) 北谷町観光情報ポータルサイト(北谷日常)については、令和6年3月にサイトリニューアルに伴うドメイン変更を行ったこともあり、閲覧数が例年より低調となったものと推測される。一方で、近年は閲覧数が伸び悩んでいることから、国内外プロモーションを推進強化するためサイト自体の情報力向上を図る必要がある。	(北谷町観光情報ポータルサイトの閲覧回数) サイト内情報力の向上を目指し、ニーズを的確に捉えた詳細な北谷町の情報をいち早く正確に掲載できるよう、地域の観光団体・観光事業者との連携をより密にする。

今後の取り組み方針

(北谷町観光情報ポータルサイトの閲覧回数)
サイト内情報力を向上させるため、サイト管理を一般社団法人北谷町観光協会に委託し、地域の有力な観光情報を常に発信できる体制構築に取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,499	12,499	9,999	2,500	0

北谷町 12,499千円 → 委託料 12,499千円 → VponJAPAN株式会社・株式会社ﾕﾒｯｸﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ共同企業体 12,499千円

（北谷町東ｱｼﾞｱ3地域向け観光物産ｺﾝﾃﾝﾂの造成及びプロモーション業務委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、プロポーザル審査委員会で選定しており、妥当であると判断する。 ○不用額はなく、適正な予算規模であった。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、適正であると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	北谷町観光統計調査事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－（2）－エ DXによる沖縄観光の変革
担当部課名	建設経済部　観光課	事業実施（予定）年度	令和5年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

本町における観光統計データの収集、整理、分析を行うことで、本町の観光統計データを整備し、当該データを基に既存の観光振興施策の改善や新規観光振興施策の立案へと繋げることで、効果的な観光振興施策を実施する。また、本町の観光関連事業者も活用できる観光統計データとすることでその事業発展に資し、本町と観光関連事業者が一体となってより質の高い観光地形成を図り、本町の観光振興に寄与することを目的とする。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	13, 168	14, 779			
	(b) 予算現額	13, 168	14, 779			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0	0			
	A.　計 (b+d)	13,168	14,779	0	0	0
B.　執行済額		13,168	14,760			
うち交付金充当額		10,534	11,807			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）（B/A）		100.0%	99.9%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：事業計画どおりに執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	年度	年度
・観光統計調査の実施 ・報告書のオープンデータ化	目　標	（　実施　）	（　実施　）	（　　）	（　　）
	実　績	実施	実施		

達成状況説明：観光統計調査事業として次を実施した。
①国や県、本町の観光統計について整理、②携帯GPSデータを活用し、観光客の動態分析を実施（日本人、外国人）、③観光客を対象とした現地アンケートを実施、④観光消費による経済波及効果の把握、⑤過去の調査結果との比較、⑥町内観光関連事業者に向けた報告会の開催⑦口コミデータによる観光課題の抽出

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	年度	目標値（　年度）
・観光統計調査による実態の把握 ・町内観光関連事業者へ報告書を提供	目　標	（　　）	（　実施　）	（　実施　）	（　　）	（　　）
	実　績		実施	実施		

進捗状況説明：各種調査を実施し、本町を訪れた観光客の実態を把握した。また、町内観光関連事業者を対象に調査結果の報告会を実施し、調査結果の利活用を図った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・昨年度の改善として関係者により早い情報共有ができるよう中間報告を実施したが、参加者が携帯GPSデータ分析にあまり馴染みがなく、調査をより効果的にできるような手法が求められる。 ・携帯GPSデータの販売元等によってデータに特徴があり、本町と他団体（OCVB等）で使用している携帯GPSデータが違ったことから、類似の調査結果に差が生じ、報告会参加者が戸惑いが生じた。 ・アンケートの回答内容が広義であったため、より具体的な内容が求められた。 ・アンケート取得数は必要数を確保しているが、その内訳（県内、県外、インバウンド）に差が生じ、取得数の少なかったインバウンドについて全体傾向を示せているか疑義が生じた。 ・得られた調査結果をもとに、オーバーツーリズムの防止に向けた取組みの実施検討を行う必要がある。	・GPSデータ分析について効果的に活用されるよう、関係者間での認知度向上並びに理解を広める。 ・他団体で使用している携帯GPSデータの活用検討を行う。 ・具体的な内容を把握できよう、アンケートの内容を見直す。 ・アンケートの取得にあたっては、観光客の属性別の取得数を考慮する。 ・時期ごとに観光客の満足度等に注視し、オーバーツーリズムとなる基準を見定めるほか、観光客の分散化を図るような取組みの実施検討を行う。

今後の取り組み方針

・報告会に合わせて前段に勉強会の開催を行う。
・他団体で使用している携帯GPSデータの特性を確認し、同じデータを活用するか検討を行う。
・アンケート回答内容を深掘りするような質問項目を追加する。
・観光客のアンケート取得数を属性別に必要数確保できるようにする。
・引き続き携帯GPSデータを活用した観光客の実態把握を行い、経年変化の把握を行うとともに、観光地の入込客数等の目標設定を行う。
・行政や観光関連事業者において得られた調査結果を活用した事業の取り組みを推進し、より効果的な観光誘客に努める。
・オーバーツーリズムも視野に入れ、観光客の満足度を低下させないような基準を見定める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,760	14,760	11,807	2,953	0

北谷町
14,760千円
→
委託料
14,760千円
→
株式会社日本能率協会総合研究所沖縄事務所・株式会社アーバントラフィックエンジニアリング沖縄事務所共同企業体
14,760千円
（令和6年度北谷町観光動向分析調査業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザルで選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-③	第２次北谷町観光振興計画策定事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－(2)－ウ 多彩かつ質の高い観光の推進
担当部課名	建設経済部　観光課	事業実施（予定）年度	令和6～令和7年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	本町の観光の現状や課題の分析を行い、今後の観光振興の方向性を示す第２次北谷町観光振興計画を策定し、計画に基づく施策を推進する。
効果発現年度	■当年度　■後年度（令和8年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,000				
	(b) 予算現額	8,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	8,000	0	0	0	0
B. 執行済額		8,000				
うち交付金充当額		6,400				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明	当初計画のとおり事業を執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
第２次北谷町観光振興計画策定に向けた検証	目　標	（　実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	当初計画のとおり、現計画となっている第１次北谷町観光振興計画（改訂版）の評価・検証の実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R6年度	R7年度	R8年度	目標値（　年度）
第２次北谷町観光振興計画策定に向けた検証の完了	目　標	（　）	（検証の完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		検証の完了			
【参考指標】令和8年度成果目標：令和7年度に策定予定の第2次北谷町観光振興計画の中の、主要観光地の入込客数等、観光誘客に係る目標値を達成する。	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	当初計画のとおり、現計画である第１次北谷町観光振興計画（改訂版）を、関係者等へのヒヤリングやアンケートにより評価・検証を行い、完了した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	検証手法として、より多くの観光関連事業者の意見の収集が必要である。	観光関連事業者の意見収集のため、メーリングリスト等による管理が出来るようにする。

今後の取り組み方針

観光関連事業者の意見収集のため、一般社団法人北谷町観光協会をはじめとする観光関連団体を通じた情報収集体制の構築に取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,000	8,000	6,400	1,600	0

北谷町
8,000千円

→ 委託料
8,000千円

→ 沖縄JTB株式会社・
株式会社オプテージ共同企業体
8,000千円

（第1次北谷町観光振興計画（改訂版）
評価・検証業務委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、プロポーザル審査委員会で選定しており、妥当であると判断する。 ○不用額はなく、適正な予算規模であった。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、適正であると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④	サンセットビーチ改良事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－（2）－ア 観光客受入体制の整備
担当部課名	建設経済部　土木課	事業実施（予定）年度	平成24～令和7年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	サンセットビーチは、これまで部分的な改良をしてきたがその都度新たな課題が出るなどを繰り返しているため、ビーチ全体の改良として本事業を行う。本事業において、当ビーチを整備拡充することで観光客受入体制を整え、更なる観光誘客を図る。				
効果発現年度	■当年度　　■後年度（　令和8年度）				
実施方法	■直接実施　　□委託　　□補助　　□負担　　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度（繰越）	R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額		170,335		184,492	121,000
	(b) 予算現額		124,410		126,051	106,832
	(c) 増減額 (b-a)		−45,925		−58,441	−14,168
	(d) 繰越額	343,576		74,646		
	A.　計 (b+d)	343,576	124,410	74,646	126,051	106,832
B.　執行済額		251,693	49,764	74,646	126,051	106,832
うち交付金充当額		105,347	39,811		100,391	85,465
次年度繰越額			74,646			
執行率（%）(B/A)		73.3%	40.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初計画より張芝面積が減となった他、処分予定の残土を盛土に流用し処分費が縮小したため、14,168千円予算を減額した。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
園路工、植栽工、照明工、休養施設工	目　標	護岸工、浚渫工、湧水対策工、造成工、養浜工	園路工、休養施設工、管理施設工	園路工、植栽工、照明工、給水工、休養施設工	園路工、植栽工、照明工、休養施設工
	実　績	護岸工、浚渫工、湧水対策工、造成工、養浜工の完了	園路工、休養施設工、管理施設工の完了	園路工、植栽工、照明工、給水工、休養施設工の完了	園路工、植栽工、照明工、休養施設工の完了
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				
達成状況説明	R6年度改良工事において、園路工、植栽工、照明工、休養施設工を完了した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R8年度）
サンセットビーチ改良工事のうち、園路工、植栽工、照明工、休養施設工の竣工。	目　標	（　　）	（　完了　）	（　完了　）	（　完了　）	（　　）
	実　績		完了	完了	完了	
【参考指標】 令和8年度成果目標 サンセットビーチ年間利用者数 ※ビーチ利用者数を成果目標として設定。	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（33万人／年）
	実　績		138,905人	200,355人	284,800人	
進捗状況説明	R6年度改良工事において、園路工、植栽工、照明工、休養施設工を完了した。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	ビーチの遊泳期間終了が10月末となっており、ビーチ管理者との協議により着工が11月からとなっているため工事期間が限られていたが、入札や議会等の諸手続きを計画的に行い、11月から着工できたことが、年度内に完了できた要因と考えられる。	ビーチ利用客の安全面を確保し、着工できる箇所があれば早期に着工できるよう管理者と協議・調整を行う。

今後の取り組み方針

・早期の着工を目指し、入札や議会等の諸手続きを計画的に行う。
・ビーチ管理者に事前に工事の説明を行い、ビーチ利用への影響が少ない範囲があるか等を協議・調整し、着工時期を早める取り組みを行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
106,832	106,832	85,465	21,367	0

北谷町 106,832千円 → 工事請負費 106,832千円 → 旭建設（株） 106,832千円

（令和6年度サンセットビーチ改良工事）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負費の支出先については指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額はなく、適正な予算規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑤	安良波公園整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－（2）－（ア） 観光客受入体制の整備
担当部課名	建設経済部　土木課	事業実施（予定）年度	令和6年度～令和8年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	安良波公園海岸沿いの園路は町内でも人気スポットであるが、狭隘している状況にあるため、園路を拡張し、利用する観光客や地元住民らの利用者による混雑を解消することで、安心して利用できる環境を整え、更なる観光誘客を図る。				
効果発現年度	■当年度　　■後年度（令和9年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R6年度	R7年度	R8年度	年度	年度
予算の状況	(a) 当初予算額	13, 302				
	(b) 予算現額	12, 540				
	(c) 増減額 (b-a)	−762	0	0	0	0
	(d) 繰越額	0				
	A.　計 (b+d)	12,540	0	0	0	0
	B.　執行済額	12,540				
	うち交付金充当額	10,032				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：撤去設計が不要となり、762千円予算を減額補正した。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R6年度	R7年度	R8年度	年度
令和6年度安良波公園園路整備実施設計業務委託（測量業務、公園設計）	目　標	（　実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：R6年度実施設計業務において、測量業務、公園設計を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R9年度）
安良波公園園路整備実施設計のうち、測量業務、公園設計の完了	目　標	（　）	（　）	（　）	（　完了　）	（　）
	実　績				完了	
【参考指標】 令和9年度成果目標 安良波公園年間利用者数 ※公園利用者数を成果目標として設定。	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（54万人／年）
	実　績		495,854人	463,508人	468,662人	

進捗状況説明：R6年度実施設計業務において、測量業務、公園設計を完了した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	測量業務、公園設計の完了について、現地細部確認・設計イメージの共有を現場立会を密に行ったことや、疑義があった際の調整等を遅滞なく行えたこと及び工程管理をしっかり行い事業を執行できたことが、目標達成の理由と考えられる。	R6事業では、左記のとおりスムーズに事業執行できたことから、引き続き同手法で事業を執行していく。 また、発注時期を早めることで、さらに余裕のある工程になると考えられるため、早期発注を目指す。

今後の取り組み方針

・次年度からは、整備工事を執行することから、早期の着工を目指し、入札や議会等の諸手続きを計画的に行う。
・工事初年度となることや公園利用者が多い箇所での工事となるため、ホームページなどで早期に工事のお知らせを行い、安全管理を徹底する。また、工事中でも公園利用者や管理者の利用に支障をきたさないように施工し、工事を円滑に執行していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,540	12,540	10,032	2,508	0

北谷町 12,540千円 → 委託費 12,540千円 → （株）ワールド設計 12,540千円

（令和6年度安良波公園園路整備実施設計業務委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額はなく、適正な予算規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	英語指導助手派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-（3）-ア 国際感覚を身に付ける教育の推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-（1）
事業内容	国際化に対応し、産業振興・観光振興に貢献できる資質・能力を持つ人材を育成するため、各小中学校に1名ずつの英語指導助手（AET）を派遣する。				
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	19,097	20,501	19,330	19,141	22,144
	(b) 予算現額	18,135	20,501	18,664	18,871	22,393
	(c) 増減額 (b-a)	-962	0	-666	-270	249
	(d) 繰越額					
	A.　計 (b+d)	18,135	20,501	18,664	18,871	22,393
	B.　執行済額	17,732	19,091	18,595	18,871	22,280
	うち交付金充当額	14,185	15,272	14,876	15,096	17,824
次年度繰越額						
執行率（%）（B/A）		97.8%	93.1%	99.6%	100.0%	99.5%
予算の状況の説明		・当初予定していた事業内容について、適正に執行した。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
小学校4名（各校1名、幼稚園兼務）	目　標	（AET配置数4名）	（AET配置数4名）	（AET配置数4名）	（AET配置数4名）
	実　績	AET配置数4名	AET配置数4名	AET配置数4名	AET配置数4名
中学校2名（各校1名）	目　標	（AET配置数2名）	（AET配置数2名）	（AET配置数2名）	（AET配置数2名）
	実　績	AET配置数2名	AET配置数2名	AET配置数2名	AET配置数2名

達成状況説明

【幼稚園】小学校英語指導助手を町立の幼稚園にも兼務として4名派遣することができた。
【小学校】町立4小学校に1名ずつ、計4名の英語指導助手を配置することができた。
【中学校】町立2中学校に1名ずつ、計2名の英語指導助手を配置することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（年度）
小学校：児童の英語への興味・関心が高まったか（80%以上）を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目　標	（　）	（80%以上）	（80%以上）	（80%以上）	（　）
	実　績		81.0%	86.9%	82.4%	
中学校：沖縄県学力到達度調査において英語の県と本町の平均正答率の差1.4ポイント以上	目　標	（　）	（1.9ポイント以上）	（2.1ポイント以上）	（1.4ポイント以上）	（　）
	実　績		1.5ポイント	△2.3ポイント	△1.6ポイント	

進捗状況説明

【小学校】
・英語に関するアンケートの設問において、「英語の授業は好きですか」「聞くことは楽しいか」「話すときは楽しいか」「もっと英語を読めるようになりたいか」「もっと英語を書けるようになりたいか」の5つの興味関心に関する質問に対し、肯定的な回答をした児童（1～6年生）の割合は82.4%と前年度をやや下回ったものの、目標値の80%を上回っている。
【中学校】
・R6県到達度調査の結果において、県平均より-1.6ポイント低くなっている。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	【小学校】 ・R6は英語専科教諭が1校に配置されたが、他の3校は英語の主たる授業者は学級担任だけであった。専科教諭が配置されない学校は、授業を進める上で英語指導助手の比重が高い学級が多くみられ、一般教諭の英語の授業力の向上が継続的な課題である。 ・各校とも、主たる授業者である学級担任との打ち合わせの時間の確保が困難な状況である。 【中学校】 ・正答率30%未満の問題で、1年31問中9問、2年38問中7問が「文法」の領域である。	【小学校】 ・英語への意欲関心をより高めるため、授業以外でも児童と積極的にコミュニケーションをとることを推奨し、英語が話せた、聞き取れたといった成功体験を積み重ねていけるようにしていく。 ・一般教諭が主たる授業者として効果的に英語指導助手を活用して英語の授業ができるよう、英語専科教諭を核とした研修を実施する。 【中学校】 ・英語指導助手の活用場面について、学んだ文法を「実際に活用する場面」を意識させる。

今後の取り組み方針

【小学校】
・児童が日常的に英語にふれ、英語を「話せた」「聞き取れた」という成功体験を積み重ねていくことが、英語への興味関心をさらに高めることに繋がると考え、英語指導助手が授業以外でも児童と積極的にコミュニケーションをとるよう継続して推奨していく。
・一般教諭は主たる授業者として効果的に英語指導助手を活用して英語の授業ができるよう、英語専科教諭を活用した研修を継続して実施していく。
・英語担当教諭との打ち合わせの時間を確保するとともに、一般教諭が主たる授業者であることの周知徹底を図っていく。

【中学校】
・各学校において諸学力調査の結果分析を行い、「話す」「聞く」場面以外でも英語指導助手を活用できないか、指導計画の見直しを促していきたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
22,420	22,280	17,824	4,456	140

北谷町 22,280千円

- 報酬 13,777千円 → ・小学校英語指導助手報酬（4名） 8,647千円 ・中学校英語指導助手報酬（2名） 5,042千円 ・時間外勤務手当 88千円
  - 町立小学校4校 町立中学校2校
  - ほか、学校行事参加（交付対象外経費）93千円
- 職員手当（期末手当・勤勉手当） 5,326千円 → ・小学校英語指導助手期末手当（4名） 1,845千円 ・中学校英語指導助手期末手当（2名） 1,055千円 ・小学校英語指導助手勤勉手当（4名） 1,540千円 ・中学校英語指導助手勤勉手当（2名） 886千円
  - 町立小学校4校 町立中学校2校
  - ほか、学校行事参加（交付対象外経費）33千円
- 共済費 2,943千円 → ・小学校英語指導助手社会保険料（4名） 1,882千円 ・中学校英語指導助手社会保険料（2名） 1,061千円
  - 町立小学校4校 町立中学校2校
  - ほか、学校行事参加（交付対象外経費）12千円
- 費用弁償 234千円 → ・小学校英語指導助手費用弁償（4名） 168千円 ・中学校英語指導助手費用弁償（2名） 66千円
  - 町立小学校4校 町立中学校2校
  - ほか、学校行事参加（交付対象外経費）2千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○北谷町会計年度任用職員の任用及び配置等に関する要綱に基づき、業務に適すると認められる者を任用しており、支出先の選定は妥当である。 ○北谷町会計年度任用職員の給与の決定及び支給等に関する規則に基づいた予算であり、適正な規模であった。 ○費用、使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	日本語指導学習支援員派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-（2）-ア 確かな学力を身に付ける学校教育の充実
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-（1）

事業内容	日本語による会話能力の向上を図るため、日本語指導学習支援員を学校に配置し、日本語が十分に理解できない外国籍児童や帰国児童等へ学習支援を行う。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,803	4,047	8,015	7,265	8,422
	(b) 予算現額	3,805	4,047	6,954	7,274	8,273
	(c) 増減額 (b-a)	2	0	−1,061	9	−149
	(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)	3,805	4,047	6,954	7,274	8,273
B. 執行済額		3,733	3,956	6,885	7,274	8,270
うち交付金充当額		2,986	3,164	5,508	5,819	6,616
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		98.1%	97.8%	99.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明：・当初予定していた事業内容について、適正に執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
日本語指導学習支援員配置：2名	目　標	（　配置数1名　）	（　配置数1名　）	（　配置数2名　）	（　配置数2名　）
	実　績	配置数1名	配置数1名	配置数2名	配置数2名
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：○日本語指導学習支援員2名を、町立学校4校を兼務として派遣することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
日本語の会話で意思疎通ができ、学校生活等への困難が改善された割合80%以上	目　標	（　　）	（　80%以上　）	（　80%以上　）	（　80%以上　）	（　　）
	実　績		78.5%	87.0%	96.0%	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：
・北谷小学校と北玉小学校を拠点に、北谷中学校、桑江中学校でも日本語指導が必要な生徒に対し指導を行った。
・目標が達成された理由として、日本語指導教室に通級する児童生徒一人一人に個に応じた指導を行うだけでなく、日本の生活習慣に適応するための指導や不安に対する心のケアも実施したことがあげられる。このことにより、教師や児童生徒との日本語による意思疎通が徐々にできるようになり、当該児童生徒の学校生活における困り感も解消されている。
・令和5年9月から試験的に開設している「日本語初期集中指導教室」を継続し、初級レベルの児童生徒へ集中的に指導できる体制を整えた。
・日本語指導教室に通級している児童生徒の保護者同士がつながる場面を設定し、交流や講演会を通して情報交換などを行った。

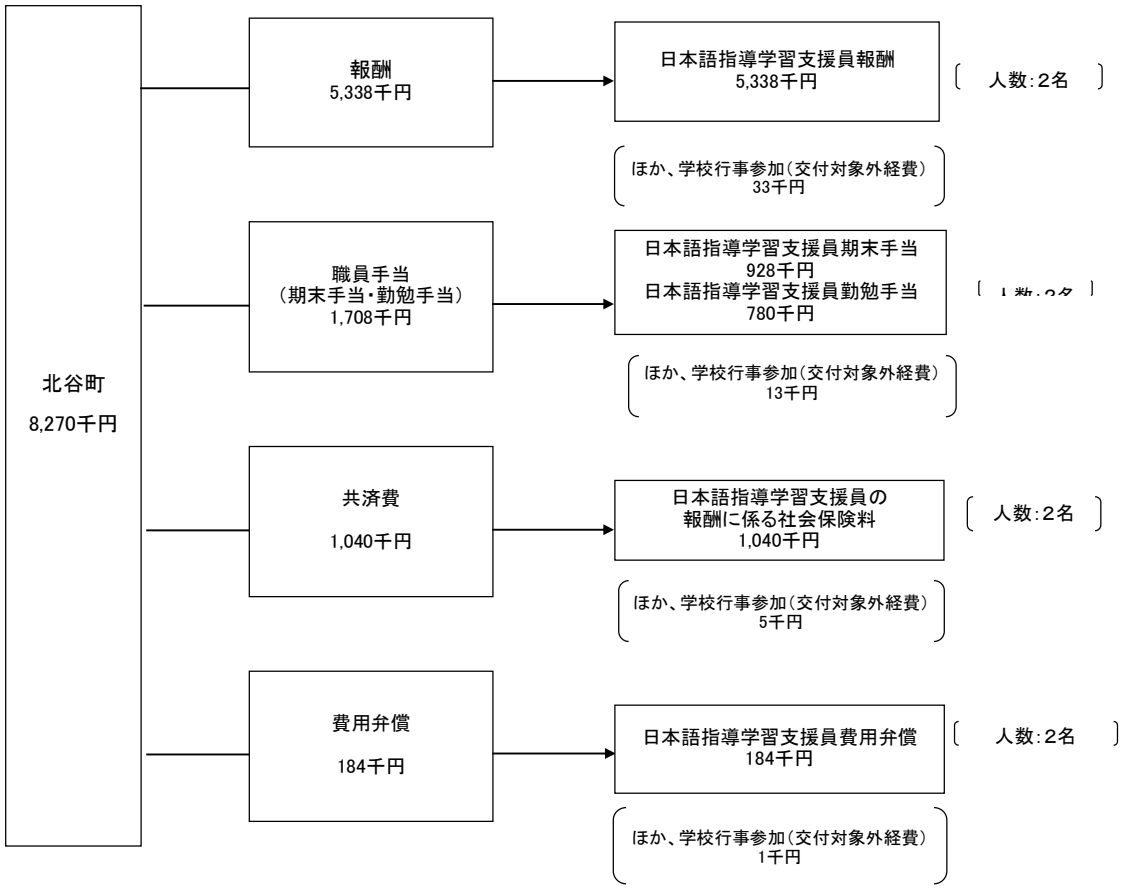
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・日本語指導を必要とする児童生徒の増加傾向がより顕著になり、その中でも日本語初級レベルの児童生徒数も多い状態が続いている。「初期集中指導教室」を開設したことで、初級レベルの児童生徒への指導は充実してきたが、指導を必要とする全ての児童生徒まで指導が行き届いていないのが現状である。 ・日本語でのコミュニケーションが不得手な保護者も増加傾向にあり、学校と保護者の円滑な情報伝達のために、日本語指導員が関わる場面が増えてきている。	・琉球大学と連携して「日本語初期集中指導教室」のカリキュラムの見直しを行い、より効果的な指導に繋げていく。 ・琉球大学と連携して、町教育委員会が主催する日本語教育に関する研修の内容の充実を図る。 ・今後も日本語指導教室に通級している児童生徒の保護者同士が交流し、繋がる場面を設定していきたい。

今後の取り組み方針

・試験的に開設している「日本語初期集中指導教室」を次年度は中学校へ設置し、指導内容、指導体制の充実を、琉球大学と連携して図っていく。
・現在の指導体制がより効果的になるよう、日本語指導員の配置計画の見直しを行うだけでなく、日本語指導員向けの研修の充実を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,322	8,270	6,616	1,654	52



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○北谷町会計年度任用職員の任用及び配置等に関する要綱に基づき、業務に適すると認められる者を任用しており、支出先の選定は妥当である。 ○北谷町会計年度任用職員の給与の決定及び支給等に関する規則に基づいた予算であり、適正な規模であった。 ○費用、使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-③	学力向上学習支援員派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-（2）-ア 確かな学力を身に付ける学校教育の充実
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-（1）

事業内容

学習に後れを取っている児童生徒に対して、授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を配置し、自ら学ぶ意欲を高め、基礎的、基本的な学習内容を理解させることで、学習環境の充実を図る。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	19,404	20,881	20,806	20,253	23,508
	(b) 予算現額	19,332	20,881	20,107	20,405	24,444
	(c) 増減額 (b-a)	-72	0	-699	152	936
	(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)	19,332	20,881	20,107	20,405	24,444
	B. 執行済額	19,040	20,284	19,942	20,405	24,431
	うち交付金充当額	15,232	16,226	15,953	16,323	19,545
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		98.5%	97.1%	99.2%	100.0%	99.9%

予算の状況の説明　・当初予定していた事業内容について、適正に執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
小学校4名（各校1名）	目　標	（　配置数4名　）	（　配置数4名　）	（　配置数4名　）	（　配置数4名　）
	実　績	配置数4名	配置数4名	配置数4名	配置数4名
中学校2名（各校1名）	目　標	（　配置数2名　）	（　配置数2名　）	（　配置数2名　）	（　配置数2名　）
	実　績	配置数2名	配置数2名	配置数2名	配置数2名

達成状況説明　○町立小中学校に1名ずつ、計6名を配置した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
沖縄県学力到達度調査において、県と本町の平均正答率の差 小学校　0.3ポイント以上	目　標	（　　）	（0.8ポイント以上）	（1.3ポイント以上）	（0.3ポイント以上）	（　　）
	実　績		△2.6ポイント	△0.9ポイント	△3.1ポイント	
沖縄県学力到達度調査において、県と本町の平均正答率の差 中学校　△1.5ポイント以上	目　標	（　　）	（△0.4ポイント以上）	（△0.9ポイント以上）	（△1.5ポイント以上）	（　　）
	実　績		△5.0ポイント	△0.4ポイント	△3.1ポイント	

進捗状況説明
・学力向上学習支援員が配置されたことで、授業においてより個に応じた指導を行うことができるだけでなく、学習プリントや教具の作成にも携わることで、授業や学習支援に繋がっている。
・県到達度調査において、県平均に対し小学校・中学校ともに-3.1ポイントとなっている。

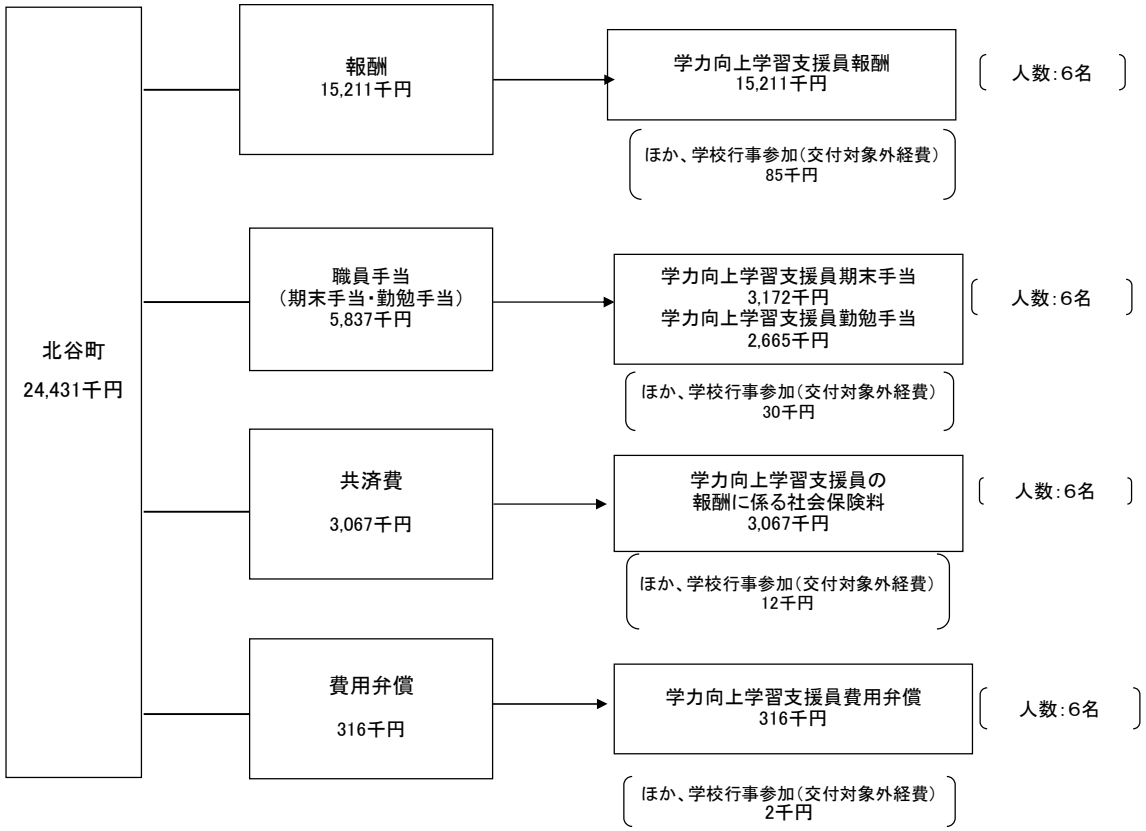
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	【小学校】 ・「B　図形」、「D　データの活用」に課題がある。 【中学校】 ・「A　数と式」、「D　データの活用」に課題がある。 【全体】 ・正答率において、県との開きがある問題がある。	・小学校「B　図形」、中学校「A　数と式」においては、試験学年だけで　の対応ではなく系統表を確認し、各学年で内容項目の指導の徹底を図る。 ・「D　データの活用」に関しては、小・中ともに課題がある。「論理的思考力」「問題解決能力」「情報活用能力」の育成を踏まえ、自分で考え、判断できるようGIGA端末を効果的に活用する。 ・正答率において、県との開きがある問題に注目し、分析を通して町の実態を把握したうえで類似問題等活用しながら対応する。

今後の取り組み方針

・年3回（4月、7月、12月）町学力向上学習支援員研修会を実施しているが、それ以外にも研修を受けられる機会を設けていき、町の施策や児童生徒の課題について理解を深めさせ、児童生徒の自己肯定感を高め、学習意欲を喚起する視点で授業に携わっていく意識を高める。
・現在の取組を継続しつつ、県の施策である「魅力ある学校づくり」の実現の一助となるような児童生徒との関わりを常に意識させるようにする。
・各学校において、AIドリル等を推奨し、自学自習に向けたGIGA端末の持ち帰り等を進めていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
24,560	24,431	19,545	4,886	129



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○北谷町会計年度任用職員の任用及び配置等に関する要綱に基づき、業務に適すると認められる者を任用しており、支出先の選定は妥当である。 ○北谷町会計年度任用職員の給与の決定及び支給等に関する規則に基づいた予算であり、適正な規模であった。 ○費用、使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－④	北谷町ハワイ短期留学派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	4-5-(3)-ア 国際感覚を身に付ける教育の推進
担当部課名	教育委員会　社会教育課	事業実施（予定）年度	平成25～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－(2)

事業内容

本町の中高生をハワイへ短期留学させ、語学学習やホームステイを通して英語力の向上を図りながら、ハワイの北谷嘉手納町人会との交流会により海外で活躍しているウチナーンチュとの親睦を図り、世界的な視野を持った人材を育てる。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,144	7,124	4	12,151	12,901
	(b) 予算現額	0	0	499	9,792	9,970
	(c) 増減額 (b-a)	-7,144	-7,124	495	-2,359	-2,931
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	0	0	499	9,792	9,970
B. 執行済額		0	0	498	6,787	9,970
うち交付金充当額		0	0	0	5,429	7,976
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	99.8%	69.3%	100.0%

予算の状況の説明：R2～R4は新型コロナウイルスの影響によりハワイ短期留学派遣事業を中止。令和5年度より再開。
令和6年度の当初予算からの減額については委託費の入札残などによるもの。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
中・高校生ハワイ短期留学派遣：15人	目　標	（　派遣15名　）	（　派遣15名　）	（　派遣15名　）	（　派遣15名　）
	実　績	新型コロナの影響により中止	新型コロナの影響により中止	派遣15名	派遣15名
派遣生の事前研修 派遣後の事後報告会及び報告書の作成	目　標	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）	（　実施　）
	実　績	新型コロナの影響により中止	新型コロナの影響により中止	実施	実施

達成状況説明：
・派遣生徒15名の募集に対し、28名の応募があり、日本語・英語面接、作文の選考試験を実施した。
・事前に移民の歴史、英語や琉舞の研修会を合わせて7回実施したため、現地での歴史文化理解、北谷嘉手納町人会とのピクニック交流会や各家庭でのホームステイ体験がスムーズに実施できた。また、報告書の作成や事後報告会を実施することで、当初の目標の達成を確認することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
保護者へのアンケートで、帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったと感じた割（80%以上）を含め、当該事業のあり方を検証する。	目　標	（　　）	（　80%　）	（　80%　）	（　80%　）	（　　）
	実　績		新型コロナの影響により中止	100%	100%	
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：
・ハワイ短期留学の効果を検証するために、派遣後に保護者へのアンケートを実施した。その結果、生徒の国際的な視野がより広まり良かったと感じた割合が80%以上であることから、当初の目標の達成を確認できた。
・派遣生へのアンケートでは、全員が事業成果を実感しており、特に言語能力の向上、多文化交流（人的交流）、国際的な視野の広がり、将来の展望（イメージ）、郷土意識の深まりのいずれか若しくは全部において効果があったことを確認できた。

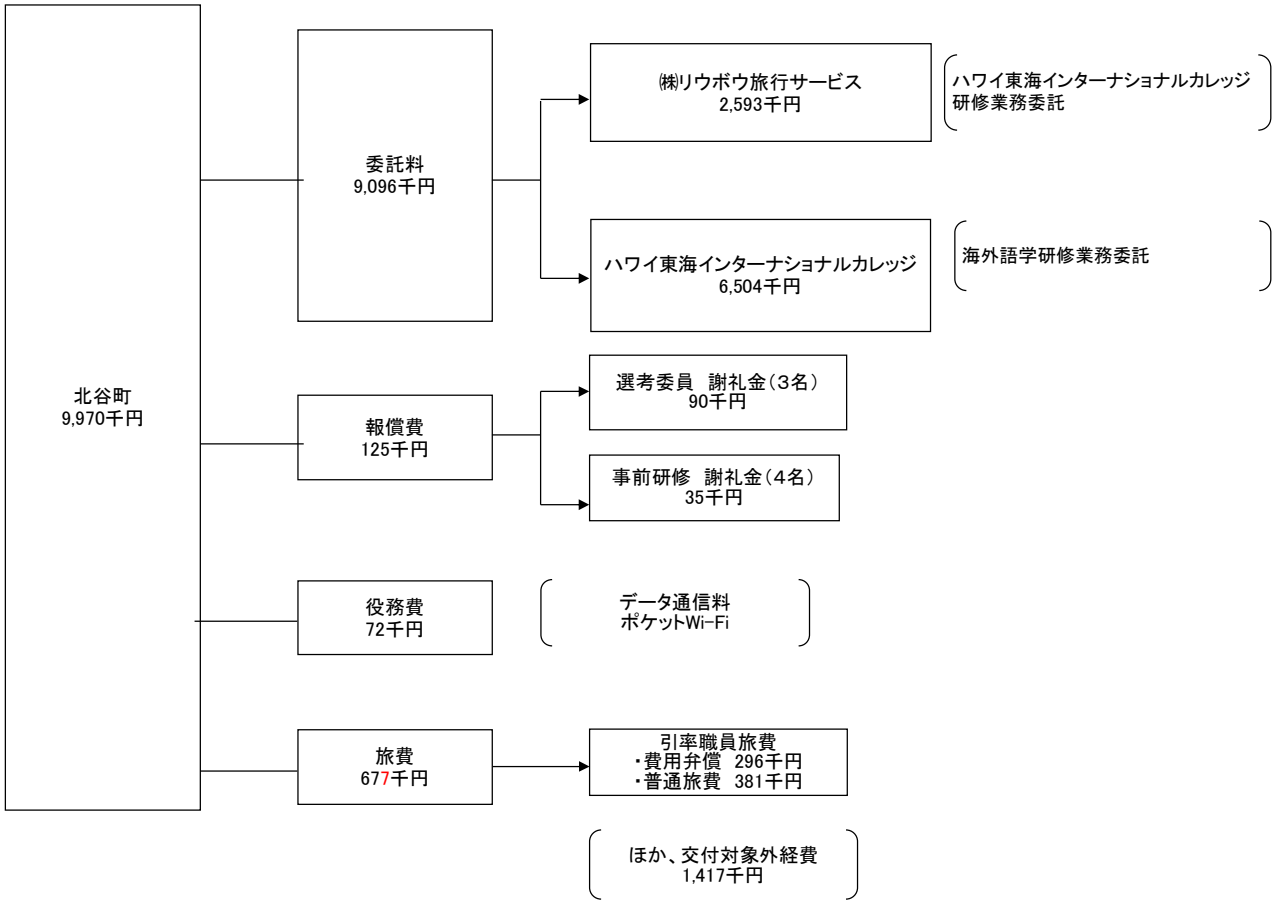
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ホストファミリーは、北谷町及び嘉手納町出身者をルーツとするハワイ北谷嘉手納町人会のメンバーであるため、事前にハワイ移民の歴史を学習することでより深く交流することができたが、講師・学習方法については改善を行う必要がある。 ・派遣生の英検取得状況及び英語運用能力について把握し、同時期に実施した金武町、宜野座村の短期留学派遣生と混合クラスとしたため、派遣生のレベルに合わせた講義が行えたことは成果であったので、引き続き合同での事業実施としたい。 ・英語が話せる職員を引率者として派遣したことで、ハワイ東海インターナショナルカレッジやホストファミリーとのコミュニケーションに支障もなく、派遣生を留学させることができた。今後も継続的な事業を実施するためには英会話のできる人材の確保が課題である。	・事前学習を研修実績のある事業者に外部委託することで、より充実した内容とし、派遣生の現地体験を向上することができると考える。 ・継続的な英会話のできる人材の確保のため、現地引率者を外部委託する必要がある。 ・事後報告会の日程を現地研修からあまり日を空けないよう調整が必要。

今後の取り組み方針

・ハワイ東海インターナショナルカレッジでの研修日程について、前年同様に金武町、宜野座村、北谷町で同日程とする。
・週末はハワイ北谷嘉手納町人会の家庭でのホームステイを行うなど現地交流を行うことで町人会との親睦を深める。
・事前研修、現地引率、事後報告会について外部委託を行い、派遣生にとってより充実した内容として、事業を継続する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,387	9,970	7,976	1,994	1,417



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者の契約については、北谷町契約規則に基づき指名競争入札しており、妥当である。 ○短期留学の期間も効果が確認できる適当なものであり、予算規模は事業内容に見合った規模となっている。 ○受益者である派遣生徒は総事業費の約3割（上限10万円）を負担しており、事業内容から判断して妥当であった。 ○費用・使途については、主に航空運賃及び現地費用であり、真に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑤	特別支援教育支援員派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第４章-５-(4)-ア 時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進
担当部課名	教育委員会　学校教育課	事業実施（予定）年度	令和6～令和9年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)

事業内容

町立幼稚園、小学校及び中学校に在籍している特別な支援を要する幼児児童生徒が、ほかの幼児児童生徒と平等に教育を受けることができるように、学校生活上の介助や学習活動上の支援を受けるための特別支援教育支援員を配置する。

効果発現年度　■当年度　□後年度（　　年度）

実施方法　■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
予算の状況	(a) 当初予算額	68,187				
	(b) 予算現額	70,525				
	(c) 増減額 (b-a)	2,338	0	0	0	
	(d) 繰越額	0				
	A.　計 (b+d)	70,525	0	0	0	
B.　執行済額		70,039				
うち交付金充当額		56,031				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.3%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

予算の状況の説明　・給与改定につき３月補正にて増額した。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
特別支援教育支援員の配置 小学校４～６名	目　標	（配置数４～６名）	（　　）	（　　）	
	実　績	配置数１９名			
特別支援教育支援員の配置 中学校２～３名	目　標	（配置数２～３名）	（　　）	（　　）	
	実　績	配置数６名			
特別支援教育支援員の配置 幼稚園１～２名	目　標	（配置数１～２名）	（　　）	（　　）	
	実　績	配置数８名			

達成状況説明
・町立幼稚園、小中学校の各学校において特別な支援を要する幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援員を合計で３３名を配置した。
・特別支援教育支援員を配置することで、障がいのある幼児児童生徒とそうでない幼児児童生徒が、可能な限り共に教育を受けられる環境を整備した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R6年度	R7年度	R8年度	目標値（　年度）
特別支援教育支援員の配置により、学校生活や学習活動における幼児児童生徒の困り感が改善されたとする割合が75%以上になる。	目　標	（　　）	（75%）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		93%			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明
・北谷町における特別な支援を要する幼児児童生徒の数は、近年毎年180名～200名で、安全の確保や学校生活上の介助など必要な支援を判断材料とし、各学校ごとの特別支援教育支援員の配置人数を決定した。
・特別な支援を要する幼児児童生徒の学校生活における困り感は、アンケートの結果、「やや改善した」が27.1%、「改善した」が66.7%で合計93.8%改善されており、目標の75%を上回った。

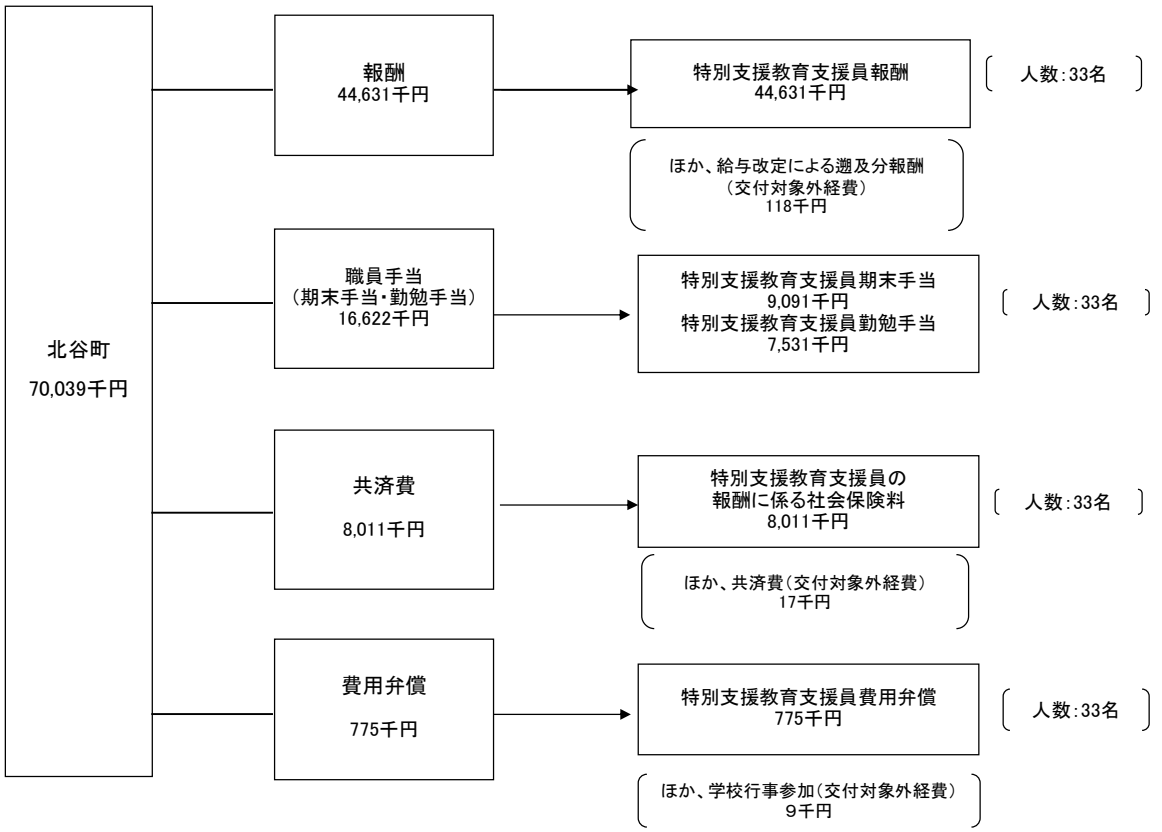
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・障がいの種類も多様化しており、各幼稚園、小中学校の学級の中への特別支援教育支援員の配置数にも、充分な配慮が必要となる。 ・支援対象の幼児児童生徒が困っていることや、その原因、具体的な支援方法など、多様な障がいの特性を理解し支援を行った。 ・特別支援教育支援員にアンケートを取った結果、90%以上が良い関わり方ができているとの回答があった。10%未満ではあるが、課題があるという回答もあった。	・支援対象の幼児児童生徒との関わりについて、学級担任との連携や協力体制について、さらに強化していく。 ・支援を行ううえでの課題は、教育相談員や巡回教育相談員などと連携し、専門的な立場からの指導や助言をもとに改善していく。

今後の取り組み方針

・障がいのある幼児児童生徒とそうでない幼児児童生徒が、共に平等に教育が受けられるように、一人ひとりのニーズに応じた支援を、特別支援教育支援員の配置で継続していく。
・多様化するニーズに対応するため、特別支援教育支援員のスキルアップを目的とした研修会を年間で5回計画していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
70,183	70,039	56,031	14,008	144



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○北谷町会計年度任用職員の任用及び配置等に関する要綱に基づき、業務に適すると認められる者を任用しており、支出先の選定は妥当である。 ○北谷町会計年度任用職員の給与の決定及び支給等に関する規則に基づいた予算であり、適正な規模であった。 ○費用、使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	北谷町文化発信拠点整備事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－1－(4)－ア 沖縄文化の継承・発展・普及
担当部課名	教育部 町立博物館	事業実施（予定）年度	平成24～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ － 3 － (3)

事業内容	北谷町の歴史、文化、自然の継承及び発信を行う事を目的に、文化発信拠点となる町立博物館整備を推進する。 博物館においては日本固有の縄文文化と沖縄特有の文化を体験できるサービスを町民や沖縄県民へ提供する。また、国内外から訪れる観光客にも同サービスを提供することにより、沖縄観光の新たなコンテンツ作りを目指す。
効果発現年度	■当年度　□年度（　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R4年度	R4年度（繰越）	R5年度	R5年度（繰越）	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	490,919		929,452		22,084
	(b) 予算現額	490,721		901,293		22,084
	(c) 増減額 (b-a)	-198	0	-28,159	0	0
	(d) 繰越額		299,474		680,843	
	A. 計 (b+d)	490,721	299,474	901,293	680,843	22,084
B. 執行済額		191,247	299,474	220,450	680,843	22,084
うち交付金充当額		152,997	239,578	176,360	296,303	17,667
次年度繰越額		299,474		680,843		
執行率（%）(B/A)		39.0%	100.0%	24.5%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		令和6年度に実施する書架設置工事おいて、工事費が当初想定を上回る事が判明したことから、交付対象外経費を追加して執行した。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R4年度	R5年度	R6年度	
北谷町文化発信拠点整備工事（建築）	目　標	北谷町文化発信拠点整備工事（建築）の実施（総事業の4割）	北谷町文化発信拠点整備工事（建築）の実施（総事業の6割）		
	実　績	北谷町文化発信拠点整備工事（建築）の完了（総事業の4割）	北谷町文化発信拠点整備工事（建築）の完了（総事業の6割）		
北谷町文化発信拠点整備工事（機械設備）	目　標	北谷町文化発信拠点整備工事（機械設備）の実施（総事業の4割）	北谷町文化発信拠点整備工事（機械設備）の実施（総事業の6割）		
	実　績	北谷町文化発信拠点整備工事（機械設備）の完了（総事業の4割）	北谷町文化発信拠点整備工事（機械設備）の完了（総事業の6割）		
北谷町文化発信拠点整備工事（電気設備）	目　標	北谷町文化発信拠点整備工事（電気設備）の実施（総事業の4割）	北谷町文化発信拠点整備工事（電気設備）の実施（総事業の6割）		
	実　績	北谷町文化発信拠点整備工事（電気設備）の完了（総事業の4割）	北谷町文化発信拠点整備工事（電気設備）の完了（総事業の6割）		
北谷町文化発信拠点周辺整備工事	目　標		北谷町文化発信拠点周辺整備工事の実施		
	実　績		北谷町文化発信拠点周辺整備工事の完了		
北谷町文化発信拠点周辺整備工事（その2）	目　標		北谷町文化発信拠点周辺整備工事(その2)の実施		
	実　績		北谷町文化発信拠点周辺整備工事(その2)の完了		
北谷町文化発信拠点書架設置工事	目　標			北谷町文化発信拠点書架設置工事の実施	
	実　績			北谷町文化発信拠点書架設置工事の完了	

達成状況説明	本事業は令和4年度から6年度までの3ヵ年計画で実施予定の北谷町文化発信拠点整備のうち、最終となる令和6年度事業分の書架設置工事を完了した。

成果目標（指標）及び進捗状況	R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（R6年度）
	北谷町文化発信拠点書架設置工事	目　標	（　　）	（総事業の4割の完了）	（総事業の6割の完了）	（書架設置工事の完了）	（　　）
		実　績		完了	完了	完了	
	年間利用客数25,000人	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（25,000人）	（　　）
		実　績				17,674人	
	進捗状況説明	・本事業は令和4年度から6年度までの3ヵ年計画で実施予定の北谷町文化発信拠点整備のうち、最終となる令和6年度事業分の書架設置工事を完了した。 ・年度末となる令和7年3月31日では利用者数が17，674人で目標を下回っているが、施設開館が令和6年11月20日であることから、約5ヶ月間の数値であり、目標値を5ヶ月間に換算すると約10,416人となることから、目標は達成できているもの考えている。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	利用者数は期間換算値では目標を上回っており、多くの方々への文化発信が行えていると考えている。県内の観光客数もコロナ過明けから回復傾向にあることから、当施設もその流れを取り込む必要がある。	現時点では、利用者数は順調な伸びを見せているが、施設の経年による利用者数減に備え、継続した講座や企画展など普及啓発活動を行いリピーターはもとより新たな来館者の拡充を目指す。

今後の取り組み方針

【R7年度】
・常設展示室のメインテーマである縄文の交流を今に体現できるよう企画展等を開催（5カ年計画の1年目）。
・縄文を1つの北谷ブランドとして確立させるための戦略・実行計画の作成を行う。
・当施設と関連が深い隣接の伊礼原遺跡公園で、サガリバナのライトアップイベントである縄文ナイトを実施。
【R8年度】
・前年度継続で常設展示室のメインテーマである縄文の交流を今に体現できるよう企画展等を開催（5カ年計画の2年目）。
・前年度作成した実行計画に基づいた施策を実施する。
・当施設と関連が深い隣接の伊礼原遺跡公園で、サガリバナのライトアップイベントである縄文ナイトを実施。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
24,629	22,084	17,667	4,417	2,545

北谷町 22,084千円 → 工事請負費 22,084千円 → 有限会社栄野比土建 22,084千円

（北谷町文化発信拠点書架設置工事）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○工事請負費については、積算基準等に基づき積算を行っており、事業内容に見合った適正な予算規模であった ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-②	北谷城跡活用促進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－1－（4）－ア 沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展
担当部課名	教育部　文化課	事業実施（予定）年度	令和5年度～令和9年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-（3）

事業内容	令和2年3月末に返還された駐留軍用地　跡地に所在する国指定史跡「北谷城跡」の公開活用を促進するため、課題の整理や解決に向けたプロセスの確認及び各種調査を行う。
効果発現年度	■当年度　　■後年度（　令和7年度）
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,380	4,125			
	(b) 予算現額	6,380	3,850			
	(c) 増減額 (b-a)	0	-275	0	0	0
	(d) 繰越額	0	0			
	A.　計 (b+d)	6,380	3,850	0	0	0
B.　執行済額		6,380	3,850			
うち交付金充当額		5,104	3,080			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明：・当初予定していた事業内容について、適正に執行した。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
公開活用に係る課題の整理	目　標	（　実施　）	（　実施　）	（　　）	（　　）
	実　績	実施	実施		
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：返還跡地に所在する北谷城跡の現状把握と課題整理ができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（R7年度）
課題整理報告書の作成	目　標	（　　）	（　完了　）	（　完了　）	（　　）	（　　）
	実　績		完了	完了		
【参考指標】 令和7年度成果目標 アンケート調査で北谷城跡を「知っている」率80%以上	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　80%以上　）
	実　績					

進捗状況説明：課題を整理した報告書を作成した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	北谷城跡は基地返還跡地に所在しているため、支障除去作業や他の返還跡地における土地利用と不可分な状況にある。また、土地の引き渡しが当初予定（令和3年度末）から延びている状況である。	支障除去や他の返還跡地の事業スケジュールを把握しながら事業を進める必要がある。

今後の取り組み方針

支障除去や他の返還跡地の事業スケジュールなども含め、関係機関や関係部署と情報共有を密に図りながら事業に取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,850	3,850	3,080	770	0

北谷町 3,850千円 → 委託料 3,850千円 → 日本工営都市空間(株)沖縄支店 3,850千円

（令和6年度北谷城跡保存支援業務委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託事業者は指名競争入札で選定されており、選定方法は妥当であった。 ○執行率は100%であり、予算規模は適正であった。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、事業の目的を達成するためには必要不可欠なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－①	北谷町特定駐留軍用地内土地取得基金事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－（13）－イ 駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進
担当部課名	総務部　企画財政課		事業実施（予定）年度	平成25～令和11年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－8

事業内容	駐留軍用地跡地の有効かつ適切な跡地利用を推進するため、基金を活用して特定駐留軍用地内の土地の先行取得を実施する。
効果発現年度	■当年度　□後年度（　　年度）
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	31,584	51,655	280,000	0	133,147
	(b) 予算現額	194,785	51,655	426,000	0	300,000
	(c) 増減額 (b-a)	163,201	0	146,000	0	166,853
	(d) 繰越額					
	A.　計 (b+d)	194,785	51,655	426,000	0	300,000
B.　執行済額		157,045	51,655	426,000	0	300,000
うち交付金充当額		125,636	41,324	340,800	0	79,653
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		80.6%	100.0%	100.0%	#DIV/0!	100.0%

予算の状況の説明：キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドーについて、新たな特定事業の見通しに伴い3月補正にて増額した。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
基金の積立	目　標	（　基金の積立　）	（　基金の積立　）	（　未実施　）	（　基金の積立　）
	実　績	51,655千円	426,000千円	未実施	300,000千円
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：基金積立額については、300,000千円を積立した。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
特定事業の用に供する土地取得目標 7,877.11㎡（全体達成率72%）	目　標	（　　）	（　87.2%　）	（　未実施　）	（　72.0%　）	（　　）
	実　績		87.2%	未実施	72%	
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：令和6年度の土地取得は7,825.76㎡となり、目標値を達成した。

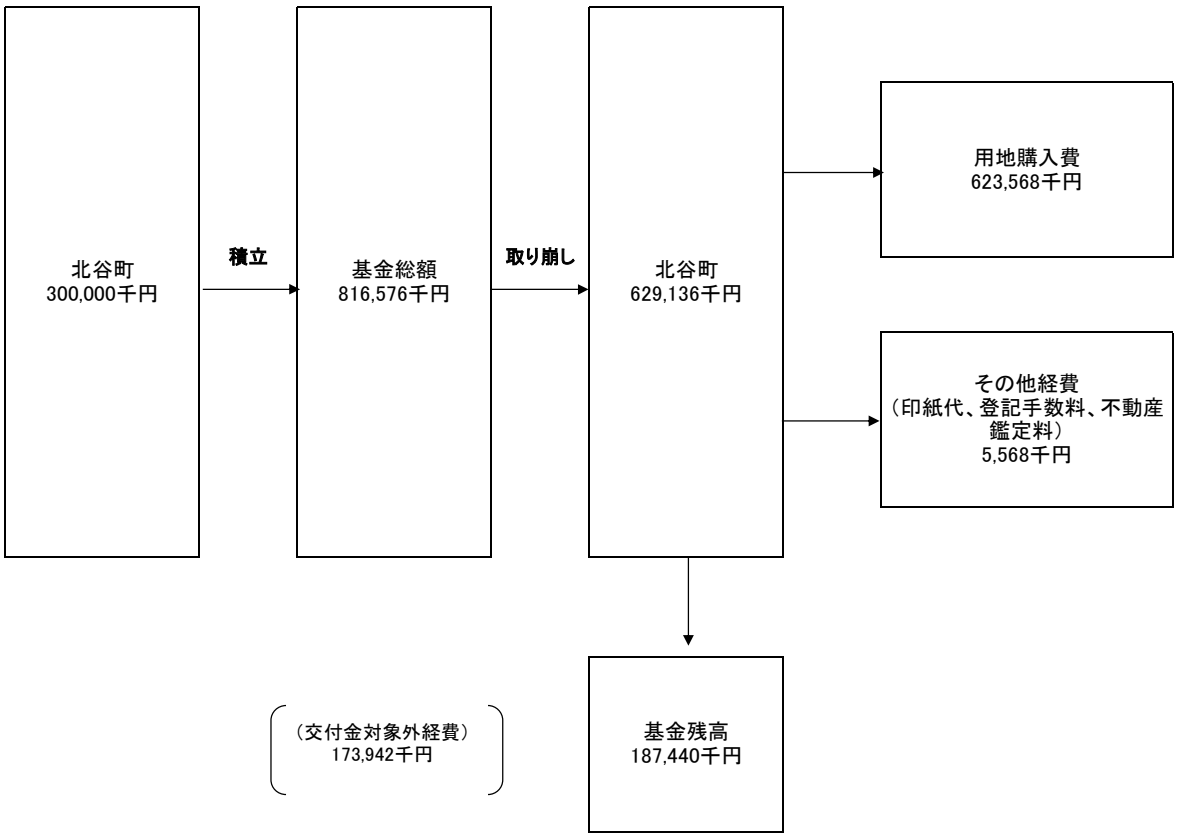
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・キャンプ桑江南側地区における目標取得面積は96,000㎡であり、令和6年度の累計取得面積は95,947.53㎡に伴い、目標達成とみなす（達成率99.9%）。令和7年度からは新たにキャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドーにて先行取得の実施を予定しているが、本地区はこれが初めての先行取得となるため、地権者の先行取得制度に対する理解度、実際の受付状況が不透明であることが課題と考える。	令和6年度末には先行取得制度について地権者説明会を実施しているが、地権者が本制度に理解いただけるよう周知活動が必要と考える。

今後の取り組み方針

令和7年度の受付状況（人数、面積、位置等）を参考に町予算、補助金申請額について調整するとともに、地権者への周知活動としてチラシの配布、町HPへの掲載などに取り組む。なお、個別訪問については、受付状況によっては買取は抽選となる可能性もあるため、令和7年度は見送り、目標面積に満たない場合など受付状況に応じて取り組む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
473,942	300,000	79,653	220,347	173,942



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○基金積立事業であり、預入先などの選定は基金運用検討委員会にて適切に行っており、妥当であると考えている。 ○予算規模については、見積りを徴取して積算しており、適正な規模であった。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により、確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－②	跡地利用推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－（13）－イ 駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進
担当部課名	総務部　企画財政課	事業実施（予定）年度	平成24～令和10年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－8
事業内容	今後返還が予定される駐留軍用地の有効かつ適切な跡地利用計画策定に向けた跡地利用推進調査及び地権者に対する説明会等を実施する。				
効果発現年度	■当年度　■後年度（令和10・11年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
予算の状況	(a) 当初予算額	23,265	19,657	43,472	17,116	19,767
	(b) 予算現額	10,000	19,657	32,907	16,170	19,767
	(c) 増減額 (b-a)	−13,265	0	−10,565	−946	0
	(d) 繰越額					
	A.　計 (b+d)	10,000	19,657	32,907	16,170	19,767
	B.　執行済額	4,693	18,150	31,614	16,170	15,950
	うち交付金充当額	3,754	14,520	25,291	12,936	12,760
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）（B/A）		46.9%	92.3%	96.1%	100.0%	80.7%

予算の状況の説明：不用額3,817千円は入札残によるものである。

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
キャンプ桑江南側地区：地権者への継続的な情報提供	目　標	（　）	（　）	（　）	（実施）
	実　績				実施
桑江第一タンクファーム地区：跡地利用基本構想（全体方針）検討、先行取得に係る課題整理及び検討	目　標	（　）	（　）	（　）	（実施）
	実　績				実施
キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区：跡地利用基本構想作成、民間企業ニーズ調査、地権者合意形成活動	目　標	（　）	（　）	（　）	（実施）
	実　績				実施

達成状況説明

（キャンプ桑江南側地区）
・先行取得事業における実績報告などを「まちづくりニュース」として地権者へ情報提供を行った。

（桑江第一タンクファーム）
・跡地利用基本構想（全体方針）検討、先行取得に係る課題整理を行った。

（キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区）
・跡地利用基本構想作成、民間企業ニーズ調査、地権者合意形成活動を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（年度）
（キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区）調査報告書の作成	目　標	（　）	（完了）	（完了）	（完了）	（　）
	実　績		完了	完了	完了	
（桑江第一タンクファーム地区）調査報告書の作成	目　標	（　）	（完了）	（完了）	（完了）	（　）
	実　績		未実施	完了	完了	
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

（キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区）
・跡地利用基本構想策定、民間企業ニーズ調査、地権者合意形成活動を行い、報告書を作成した。

（桑江第一タンクファーム地区）
跡地利用基本構想（全体方針）検討、先行取得に係る課題整理を行い、報告書を作成した。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区） 過年度にて作成した行動計画のとおり、跡地利用基本構想策定、民間企業ニーズ調査、地権者合意形成活動を行ったことが目標達成の要因と考えられる。一方、「売る、貸す、使う」といった地権者の意向は固まっていないことが課題である。 （桑江第一タンクファーム地区） 本地区は、大部分が急傾斜の斜面地形となっており、宅地利用は困難と予想されることから、これらの区域について、跡地利用整備事業での取扱いを検討することが課題となっている。	（キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区） 過年度の跡地利用の検討結果を踏まえ、引き続き地権者との協議、説明会を行い、当該地区の有効な跡地利用の促進を図る。 （桑江第一タンクファーム地区） 本地区の跡地利用にあたっての特有の課題等について、関係機関との共有を図り、対応策や支援等について検討していく予定。

今後の取り組み方針

（キャンプ瑞慶覧インダストリアル・コリドー地区）
本地区の代表者と意見交換、地権者全体への説明会実施実施により、地権者が意向を固めやすいよう情報提供を行うとともに、地権者の意向とまちづくり計画の内容の整合が図られるよう、合意形成を図る。

（桑江第一タンクファーム地区）
上記の検討を踏まえ、駐留軍用地の返還時期を見極めながら、跡地利用計画の作成及び地権者合意形成に備える。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,950	15,950	12,760	3,190	0

北谷町
15,950千円

→

委託料
15,950千円

→

日本工営都市空間株式会社
沖縄支店
15,950千円

跡地利用計画検討
・まちづくりニュース発行
・先行取得事業支援業務
・跡地利用基本構想（全体方針）の検討
・先行取得に係る課題整理
・企業ニーズ調査
・基本構想策定
・地権者説明会開催補助
・地権者意見交換会開催補助

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札で選定されており、選定方法は妥当であったと考える。 ○予算規模は、必要性を踏まえて見積りを徴取により所要額を算出したものの、入札残により不用が生じた。 ○費目、使途については業務完了後に検査を実施しており、目的に即し適正なものであったと判断した
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町

令和６年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	里海プロジェクト事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章 －１－（2）-ア 自然環境・生物多様性の保全・継承
担当部課名	北谷町立博物館	事業実施（予定）年度	令和3年度～令和7年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－ 10 －(1)
事業内容	本町に残された自然の保全・活用を図るため、本町の沿岸、河川及び緑地に生息する生物の全体把握を行う。また、それら結果を活用し展示公開等を行い自然保全の意識醸成を図る。				
効果発現年度	■当年度　■後年度（令和13年度）				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
予算の状況	(a) 当初予算額	16,995	7,942	12,324	7,469	
	(b) 予算現額	16,995	7,920	12,320	6,930	
	(c) 増減額 (b-a)	0	-22	-4	-539	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	
	A. 計 (b+d)	16,995	7,920	12,320	6,930	0
	B. 執行済額	16,775	7,920	12,320	6,930	
	うち交付金充当額	13,420	6,336	9,856	5,544	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	#DIV/0!
予算の状況の説明		・当初予定していた事業内容について、適正に執行した。				

活動目標（指標）及び達成状況

R6活動目標（指標）		達成状況 R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
北谷町沿岸環境保全利用調査報告書の作成	目　標	北谷町沿岸環境保全利用調査報告書の作成	（　）	（　）	（　）
	実　績	完了			
北谷町沿岸河川環境保全利用調査報告書の作成	目　標	（　）	北谷町沿岸河川環境保全利用調査報告書の作成	（　）	（　）
	実　績		完了		
タイヘイヨウアカボウモドキの骨格標本の製作	目　標	（　）	（　）	タイヘイヨウアカボウモドキの骨格標本の製作	（　）
	実　績			完了	
北谷町陸域生物調査報告書（その1）の作成	目　標	（　）	（　）	（　）	北谷町陸域生物調査報告書（その1）の作成
	実　績				完了
達成状況説明	北谷町陸域生物調査報告書の作成を完了した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

R6成果目標（指標）		基準値（　年度）	R4年度	R5年度	R6年度	目標値（　年度）
北谷町陸域生物調査報告書（その1）の作成	目　標	（　）	（　）	（　）	（完了）	（　）
	実　績				完了	
【参考指標】【R13年度成果目標】パネル展示等により、保全意識が高まったか。（アンケートで「保全意識が高まった」と答えた割合）	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（80%）
	実　績					
進捗状況説明	予定通り北谷町陸域生物調査報告書（その1）の作成を完了した。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	陸域の自然環境保全活用するための基礎情報を得るための調査を円滑に整備することができた。 本プロジェクトの立上げ当初から行っている観察会を通したアンケート調査の結果より、自然保全の意識の高まりを実感している。 本事業は自然保全利用活用のための基礎情報であり、普及啓発活動やモニタリング調査を行うことによって効果を発揮することができる。よって今後の継続した事業活動が必要と考える。	・町民参加型調査（自然観察会）等を通し、継続した普及啓発活動を行う必要がある。 ・町立博物館において展示し活用するとともに、持続可能な地域資源を活かしたまちづくりの基礎情報として蓄積・活用する。 ・環境の変化を捉えるためのモニタリングを行う必要がある。

今後の取り組み方針

【調査・研究】
・陸域の生物調査（その2）を行う。
・環境の変化を捉えるため5年もしくは10年後に再度調査を行う（モニタリング）。
【普及啓発】
・調査結果を活用した企画展を開催する。
・今後建設予定の町立博物館において展示する。
・町民参加型調査（自然観察会）を行う。
【効果測定】
・環境保全意識の変化を捉えるためプロジェクト終了後にアンケート調査を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,930	6,930	5,544	1,386	0

北谷町 6,930千円 → 調査業務委託料 6,930千円 → （一財）沖縄県環境科学センター 6,930千円

（北谷町陸域環境保全利用調査業務委託（その1））

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託業者は調査実績のある業者を指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額はなく、適正な予算規模であった。 ○費目、使途については、精算段階で検査を実施しており、事業目的に即し必要なものであったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	